支援活動だより　「お世話になった菓子舗」

支援活動担当（釜石地域）　福士　久美子

私の住む地域は、魚市場のある海にもっとも近いところです。震災では壊滅的な被害がありました。

地域に、明治時代から続いている菓子舗がありました。４代目老夫婦と５代目若夫婦が切り盛りするお店で、わが家でもお祭りのときのお餅、お正月にはお供え餅と切り餅、時には豆餅を作ってもらっていました。

５代目ががんばって建てた３階建ての店舗兼自宅は、津波でぐちゃぐちゃになってしまいました。

新聞に掲載された、若主人の言葉です。「店を引き継いでからは寝る間も惜しんで働いてきた。運転資金として借りた銀行からの借金は残ったまま。今日も“払ってくれ”と電話があった。常連客からは再開のことをきかれる。今は“やれない”と返すしかない。自分が商いで失敗して万歳した訳じゃないんだ。負債をゼロにしてもらえるなら、また稼ぐ自身はある」。

その後、用事があって借り上げ住宅で暮らす若奥様を訪ねました。仕事用の道具をそろえるには多額の資金を要すること、後継者のことを考えると再建は難しいと話されました。そして、菓子職人一筋のご主人のこれからを案じておられました。

災害で自宅をなくした人が、自宅を再建する時に最大 300 万円を支援する「被災者生活再建支援法」。店舗兼自宅はこの制度の対象になりません。自営業の方の再建となると、ハードルが高いことを痛感しています。

支援活動　9月11日「震災を忘れない日」募金活動

【一関ｺﾙｻﾞ】
お子さん連れの方など若い方の募金が多かったのが印象的でした！

【ﾍﾞﾙﾌ牧野林】
被災された方、ご家族を亡くされた方もご協力くださいました。

【ベルフ青山】
ママといっしょにぼきんのおねがいしたよ。

店舗では毎月 11 日を「震災を忘れない日」として募金を呼びかけています。「一人で募金に立つのは恥ずかしいな…」という方、ぜひ組合員活動チームへ連絡を！職員や常務理事が一緒にやります！

Kのつぶやき　「悩んだあげく」

７月末から右の胸が痛かった。部位が部位だけに人に相談するのもはばかられ、１人で悩んでいた。２週間過ぎても痛いので、ひそかに乳がんの症状を調べてみると「乳がんの１割は痛みを伴う」とある。「これかもしれない！」と病院へ行く決心をした。

マンモグラフィの痛みに耐え、超音波の検査も終え、医師のお言葉は「結論から申し上げて、どこにもガンはありません。それよりどこかに胸をぶつけませんでしたか？」と。「・・・あ！」心当たり。軟骨の損傷だった。

この話をあるセンターでしたところ、ドアの向こうから突如現れたＹセンター長が「それってケガ通院だから共済に申請してみれば？」。すぐコープ共済の申請書を提出したところ、２～３日後に千円入金されていた。検査ってけっこう費用がかかったので千円は嬉しかった。

嬉しいおまけつきのまぬけな話でした。

（K）